

「焼き板工作」の流れ

1 活動の流れ



新聞紙と雑巾、軍手は各団体で用意します。



火バサミ、ほうき、十能は倉庫の中に、薪は倉庫裏にあります。



丸めた新聞紙を下に入れ、薪は細いものを交互に重ねます。



人数の多い時は、かまどの上に杉板を並べて焼きます。



人数が少ない時は、火バサミで持って焼きます。



杉板の側面も、しっかり焼きます。



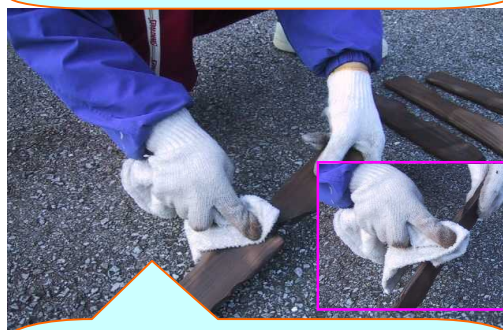
端が赤くなって焼けすぎたときは、火バサミでこすって落とします。



焼きあがったら、金ブラシで板目にそってすすを落とします。



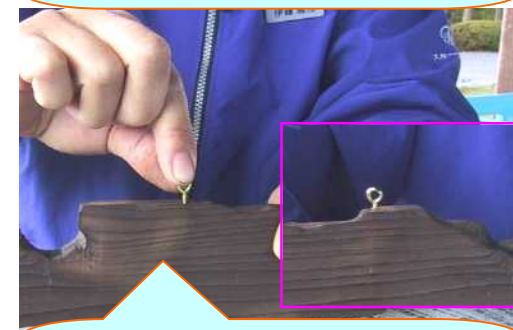
すすを落としたら、紙やすりで板目にそって磨きます。



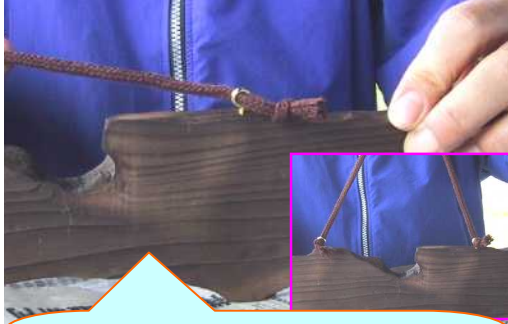
雑巾で汚れを落としながら、さらに磨きます。



きりで、ヒートンを取り付ける穴をつけます。



穴があいたところに、ヒートンをねじりながら入れます。



ヒートンにヒモを通して、両端に結び目をつくれます。



絵づけをして完成です。



食事棟やアスファルトの上、まわりのゴミをきれいに掃きます。



ゴミや灰は、炊事棟のドラム缶に捨てます。

2 活動の留意点

- ・ 「焼き板工作」に必要な道具(ネオカラー、皿、筆、金ブラシ、ヒートン、紙やすり、杉板)は、活動の前に事務室に取りにきてください。活動が終了したら元のように片付け、事務室に返してください。
- ・ 軍手をしてもやけどをすることがあるので、杉板をつかむ時は火バサミを必ず使ってください。
- ・ 杉板の焼け焦げた部分やすずを落とす時(写真)は、アスファルトの上で行ってください。雨の日には、炊事棟の床で行ってください。食事棟のテーブルは絶対に使わないようにしてください。
- ・ 絵づけをする時は、テーブルを汚さないように新聞紙を敷いて行ってください。
- ・ 後片付けの時、かまどには水をかけないで下さい(水をかけると壊れる場合があります)。燃え残りはそのままドラム缶の中に捨ててください。